

第6章 動名詞

■動名詞

(01) 動名詞

日本語の〈動作〉や〈状態〉を表す動詞を名詞的に表現したい場合、例えば、「走る」を「走ること」、「知っている」を「知っていること」のように、動詞の語尾に「～こと」を付ける。他に「走り」という動詞の連用形を名詞として使ったり、「書きもの」のように「動詞の連用形＋もの」で名詞を作ったりする方法がある。或いは漢字の熟語の力を借りて「知識」と表すことで名詞を表現することもできる。一方、英語では動詞の原形に **-ing** 形をつけて、**run** ⇒ **running**, **know** ⇒ **knowing** のようにすることで名詞を作ることができる。このように動詞の原形に **-ing** 形をつけて名詞化したものを動名詞という。動名詞は動詞の働きを持ちながら、文中では名詞と同じ働き、つまり、主語、目的語、補語、前置詞の目的語になることができる。

(02) 用法

動名詞は主語、目的語、補語、前置詞の目的語などになる。

① 主語になる

動名詞は主語になる。動名詞が主語として用いられる場合には、補語にも動名詞が対照的に使われている場合が多い。

01. **Teaching is learning.** [Teaching=主語]

(教えることは学ぶことである。)

02. **Doing nothing is doing ill.** [Doing nothing=主語]

(小人閑居して不善をなす。)

03. **A knocking at the door was heard.** [A knocking at the door=主語]

(ドアを叩くのが聞こえた。)

04. **Playing baseball is fun.** [Playing baseball=主語]

(テニスをすることは面白い。)

05. **Being punctual is my ethical principle.** [Being punctual=主語]

(時間を厳守することは私の信条です。)

06. **Spitting on a coin is a charm against enchantment.** [Spitting on a coin=主語]

(コインに唾を吐くことは魔法にかからないためのおまじないである。)

07. **Coming up on your left is.** [Coming up on your left=主語]

(左手に見えますのは…。)

08. **Taking photos is permitted.** [Taking photos=主語]

(写真撮影は禁止。)

② 補語になる

動名詞は補語になる。

09. Seeing is believing. [believing=補語]

(百聞は一見に如かず。)

10. Doing nothing is being lazy. [being lazy=補語]

(何もしないことは怠けているということである。)

11. One of my hobbies is collecting old books. [collecting old books=補語]

(私の趣味の一つは古書蒐集です。)

12. Reading good books is widening our mind. [widening our mind=補語]

(良書を読めば精神が広がる。)

③ 目的語になる

動名詞はある種の他動詞 (enjoy, finish, stop, etc.) の目的語になる。

13. We enjoyed talking a lot last night.

(私達は昨夜たくさんお話をして楽しんだ)

14. I finished doing my homework in the morning.

(私は午前中に宿題をやり終えた。)

15. The baby stopped crying.

(赤ちゃんは泣き止んだ)

16. I'm considering going to England.

(私はイギリスに行こうと思っている。)

17. He denied knowing anything about that case.

(彼はその事件については何も知らないと言った。)

18. They escaped being killed in that railroad accident.

(彼はあの列車事故で事故死を免れた。)

19. Would you mind helping me?

(手伝って貰えませんか。)

20. The child narrowly missed being run over.

(その子どもは危うく車に轢かれるところだった。)

21. My father gave up smoking.

(父は煙草を吸うのを止めた。)

22. You should avoid eating meat.

(肉を食べるのを避けるのがよい。)

23. My brother admitted telling a lie.

(弟は嘘をついたことを認めた。)

24. I advised buying a good dictionary.

(私は良い辞書を買うことを勧めた。)

25. He delayed leaving for America.

(彼はアメリカに出発するのを遅らせた。)

excuse, forgive, pardon, prevent らは動名詞を直接続けることはできないが、「所有格（または目的格）＋動名詞」「目的語＋前置詞＋動名詞」の形を続ける。(Thomson A.J. and A.V. Martinet 1986⁴)

26. Please **excuse my coming late**. (遅刻してすみません。)

27. =Please **excuse me for coming late**.

28. Please **forgive me/my ringing you up so early**. (こんなに朝早くから電話をすみません。)

29. =Please **forgive me for ringing you up so early**.

30. Please **pardon my interrupting you**. (お話のお邪魔をしてすみません。)

31. =Please **pardon me for interrupting you**.

④ 前置詞の目的語になる

動名詞は前置詞の目的語になる。前置詞の働きは名詞の前につけ、語と語の関係を明らかにすることである。しかしながら、動詞の前には前置詞は置けない。もし動詞の前に前置詞を置きたいと思うのなら、その動詞を動名詞に変えなければならない。

32. **Yielding is sometimes the best way of succeeding**.

(譲歩は時には最良の成功方法である。)

33. **This is a machine for viewing distant objects**.

(これは遠くにある物を見るための機械です。)

34. **I did my homework after watching TV**.

(テレビを見た後に宿題をした。)

35. **Brush your teeth before going to bed**.

(寝る前に歯を磨きなさい。)

36. **We talked about fishing in the river for hours**.

(私達は川釣りについて何時間も話をした。)

37. **Jack is above telling a lie**.

(ジャックは嘘をつくような人ではない。)

38. **We live by helping each other**.

(私達はお互い助け合って生きている。)

39. **I'm sleepy from sitting up late at night**.

(私は夜更かしをしたので眠い。)

40. **I made a mistake in trusting him**.

(彼を信用したのは失敗だった。)

41. **I'm tired with working**.

(私は働き疲れた。)

42. **She persuaded her son into going**.

(彼女は息子を説得して行かせた。)

(03) 動名詞の意味上の主語

動名詞の意味上の主語は、それが人称代名詞の場合には所有格と目的格のどちらでも表すことが可能であるが、一般的に所有格を用いると〈正式で堅苦しい文語的な表現〉になると言われ、目的格を用いると〈口語的でくだけた表現〉になると言われる。その一方で、所有格がより普通、目的格がより普通という場合もあるので注意が必要である。また、名詞の場合にはアポストロフ-S をつけて所有格にすることもありますが、何もつけないことも多い。

① 動名詞が文の主語である場合は所有格が普通である。

43. **Our doing that is very important.**

(私たちがそれをするのはとても大切である。)

44. **Taro's visiting my house was very welcomed.**

(太郎が私の家を訪問することは歓迎であった。)

45. **Your coming so late caused us trouble.**

(あなたが遅くきたので私たちは迷惑を被った。)

② 動名詞が動詞や前置詞の目的語である場合は目的格又は所有格である。

46. **They didn't like our [us] doing that.**

(彼らは私たちがそれをするのを好まなかった。)

47. **They insisted on our [us] doing that.**

(彼らは私たちがそれをするを言い張った。)

48. **He complained of the room being too cold.**

(彼は部屋が寒すぎると不平を言った。)

49. **He was fond of his children [children's] playing outside.**

(彼は子どもたちが外で遊ぶのを好んだ。)

③ 意味上の主語に所有格よりも目的格の方が普通である動詞。

50. **They can't stop me going there.**

(彼らに私がそこに行くことを止めることはできない。)

51. **Business prevented me from attending the meeting.**

(用事でその会議に出席できなかった。)

④ 意味上の主語に目的格よりも所有格の方が普通である動詞。

52. **I deeply appreciate your coming all this way.**

(はるばるお越し戴いて深く感謝致します。)

Dr. Higgins's room

英語特有の表現に「名詞構文」というものがある。「動詞または形容詞の名詞形が中心となって意味を成す構文」である。例えば、

- (a) **He visited Okinawa.** (彼は沖縄を訪問した。) という動詞を含む英文から
- (b) **his visit to Okinawa** (彼の沖縄への訪問) という名詞構文を作ることができる。

この名詞構文の名詞として動名詞が用いられることももちろんある。例えば、

- (c) **He passed the examination.** (彼は試験に合格した。) という英文から
- (d) **his passing the examination** (彼の試験合格) という名詞構文を作ることができる。

(b)の visit は完全な名詞なので次にくる名詞の Okinawa との間に前置詞が必要になるが、(d)の passing は動名詞なので直接に名詞の the examination を続けられる。しかし、動名詞でも名詞的性格が強調されると動名詞と次にくる名詞との間に前置詞が入ることもある。

「名詞構文」では、意味上の主語は普通 (b) (d) のように「所有格」で表わされるが、それ以外に、「of+名詞」、「by+名詞」、「for+名詞」等で表される場合がある。一方、意味上の目的語も「所有格」、「of+名詞」、「for+名詞」等で表わされる。そこで、主語と目的語の判別に悩まされないためには、「by+名詞」は主語しか示さないということと、「for+名詞」は目的語しか示さないということをしつかりと覚えておかなければならない。また、動名詞や名詞形の元になる動詞が自動詞であるか他動詞であるかを調べることも、後に続く名詞が目的語であるどうかを判断するのに有益である。

①意味上の主語は「所有格」、「of+名詞」、「by+名詞」で表わされる。

my son's death 「息子の死」(「所有格」が主語を表わしている)

in the hearing of many people 「多くの人が聞いているところで」(「of+名詞」が主語を表わしている)

crimes by young people 「若年層による犯罪」(「by+名詞」が主語を表わしている)

②意味上の目的語は「所有格」、「of+名詞」、「for+名詞」で表わされる。

their rescue 「彼らの救助」=「彼らを救助すること」(「所有格」が目的語を表わしている)

knowledge of a foreign language 「外国語を知っていること」(「of+名詞」が目的語を表わしている)

trust for other people 「他人を信用すること」(「for+名詞」が目的語を表わしている)

③意味上の主語と目的語が両方とも示される場合

「所有格+名詞+of+…」では〈所有格は意味上の主語〉、〈of+名詞は意味上の目的語〉

「名詞+of+名詞+by+名詞」では〈by+名詞は意味上の主語〉、〈of+名詞は意味上の目的語〉

「名詞+of+名詞+for+名詞」では〈of+名詞は意味上の主語〉、〈for+名詞は意味上の目的語〉

mother's love of the child 「母の子に対する愛情」

the helping of men by horses 「馬が人を助けること」

the love of the parents for their children 「両親が子どもを愛すること」

(04) 動名詞を用いた熟語や慣用的表現

熟語・慣用的表現	訳し方
be good at ~ing	~するのが上手(得意)である
be fond of ~ing	~するのが好きである
be afraid of ~ing	~するのが心配である、~するのが怖い
be sorry for ~ing	~してすみません
be ashamed of ~ing	~することを恥じる
be interested in ~ing	~することに興味がある
be proud of ~ing	~することに誇りがある(自慢している)
think of ~ing	~することを考えている
succeed in ~ing	~することに成功する
believe in ~ing	~することを価値がある(正しいこと)と信じる
feel like ~ing	~したい気がする
cannot help ~ing	~せざるを得ない
Would [Do] you mind ~ing?	~していただけますか
Would [Do] you mind my [me] ~ing?	~してもかまいませんか
look forward to ~ing	~するのを楽しみにして待つ
How about ~ing	~するのはどうですか
What do you say to ~ing?	
be used to ~ing	~することに慣れている
be accustomed to ~ing	
get used to ~ing	~することに慣れる
get accustomed to ~ing	
never [cannot]...without ~ing	…すれば必ず~する
It goes without saying that ~	~ということは言うまでもないことだ
make a point of ~ing	~することになっている
be on the point of ~ing	~しようとしている
be worth ~ing	~する価値がある
There is no ~ing	~することはできない
It is no use ~ing	~しても無駄である
of one's own ~ing	自分自身で~した
on ~ing	~するやいなや
in ~ing	~する際には
come into being	生まれる、生じる

53. **My father is good at cooking.**
(父は料理が得意です。)
54. **My mother is fond of shopping.**
(母は買い物が好きです。)
55. **Don't be afraid of making mistakes.**
(間違うことを恐れるな。)
56. **I'm sorry for being late.**
(遅れてすみません。)
57. **You should be ashamed of lying to me.**
(君は私に嘘をついたことを恥じるべきだ。)
58. **I'm interested in taking pictures of cats.**
(私は猫の写真を撮ることに興味があります。)
59. **I'm proud of being Japanese.**
(私は日本人であることに誇りを持っています。)
60. **I'm thinking of going over to America this summer.**
(今夏アメリカに行こうかと考えている。)
61. **He succeeded in crossing the Pacific Ocean in a yacht.**
(彼はヨットで太平洋横断に成功した。)
62. **Do you believe in getting up early?**
(あなたは早起きすることは良いことだと信じますか。)
63. **I didn't feel like eating or drinking anything.**
(私は何も飲食する気にはなれなかった。)
64. **I cannot help thinking so.**
(私はそう考えざるを得ない。)
65. **Would you mind opening the door?**
(ドアを開けて頂けませんか。)
66. **Would you mind my opening the window?**
(窓を開けてもかまいませんか。)
67. **I'm looking forward to seeing you again.**
(またお会いするのを楽しみにしています。)
68. **How about playing tennis?**
(一緒にテニスをするのはどうですか。)
69. **What do you say to playing tennis?**
(一緒にテニスをするのはどうですか。)
70. **I'm not used to driving on the left.**
(私は左側通行の運転に慣れていません。)
71. **I soon got used to studying in a noisy room.**
(私はすぐにうるさい部屋で勉強することに慣れました。)
72. **I never see this picture without thinking of my dead sister.**
(私はこの写真をみれば必ず亡くなった姉のことを思い出す。)

- 73. You can't make an omelette without breaking eggs.**
(卵を割らずしてオムレツは作れない。)
- 74. It goes without saying that honesty is the best policy.**
(正直が最良の策であることは言うまでもない。)
- 75. I make a point of walking to my office.**
(私は歩いて自分の会社まで行くことにしている。)
- 76. He was on the point of leaving.**
(彼はまさに家を出ようとしているところだった。)
- 77. This book is worth reading.**
(この本は読むに値する。)
- 78. There is no disputing about tastes.**
(蓼食う虫も好き好き。)
- 79. It is no use crying over spilt milk.**
(覆水盆に返らず。)
- 80. This is a picture of my own painting.**
(これは私が自分で描いた絵です。)
- 81. On hearing the news, my sister burst out crying.**
(その知らせを聞くと、姉は泣き出した。)
- 82. Watch out for cars in crossing the street.**
(通りを横切るときは車に気をつけなさい。)
- 83. The magazine came into being in 1950.**
(その雑誌は 1950 年に創刊された。)

(05) 動詞の目的語として動名詞をとるか to-不定詞をとるか
 動名詞と to-不定詞には次のような特徴がある。

	動名詞	to-不定詞
時間的には	動名詞は to-不定詞と比べると、名詞的性格が強く、既にもう事実になってしまっていることを表していると言える。そういう意味では、静的であり、時間的に止まっていると言える。過去回想的であるとも言える。	to-不定詞の to は元来《方向》を表す前置詞であったことからわかるように、これからある行動をとろうとしていることを表していると言える。そういう意味では、動的であり、時間的に未来想像的であると言える。
とる動詞の特徴	「やめる」、「避ける」、「中止する」などのような消極的な意味の動詞の目的語になることが多い。	「決心する」、「決定する」、「したい」などのような積極的な意味の動詞の目的語になることが多い。
意味上の主語	文の主語と一致するとは限らない	文の主語と一致する

① 目的語に動名詞はとらず to-不定詞をとる動詞

動詞+to~	訳	し	方
	注	意	項
learn to~	(i) 「S〈人〉が~することを習い覚える」 (ii) 「S〈人〉が~するようになる」		
	(i)「学ぶ」⇒「~することを習い覚える」と、(ii)「身につける」⇒「~するようになる」の二つの厳密な区別があるが、意味上区別するのは難しい。		
manage to~	「S〈人〉がやっとのことで~する」		
	否定文では to do 以下が行われなかったことが含意される。それゆえ、否定文の訳し方には注意が必要である。		
decide to~	「S〈人〉が~しようと決心する」		
expect to~	(i) 「S〈人〉が~するつもりである」 (ii) 「S〈人〉が~することを予期している」		
hope to~	「S〈人〉が~することを望む」		
	主節の主語と to-不定詞の意味上の主語が異なる場合は、that 節で表す。		
promise (O) to~	「S〈人〉が (O〈人〉に) ~すると約束する」		
	文脈上、約束相手の O が明らかな場合には、O は省略可能である。この構文では、to-不定詞の意味上の主語は主節の主語であることに注意する。		
wish to~	「S〈人〉が~したいと思う。」		
	「あまり見込みはないが、願望を抱いている」という含みがある。それゆえ、want の丁寧語として用いられる。that 節を用いた表現とは意味が異なる。		

■色の動詞は that 節には書き換えられないが、■色の動詞は that 節で書き換えられる。

84. **I learned to live with pain soon?**
(私はすぐに痛みに慣れた。)
85. **He managed to catch the last train.**
(彼はなんとか終電に間に合った。)
86. **He didn't manage to catch the last train.**
(彼は急いだが終電に間に合わなかった。)
87. **We decided to build a new house.**
(私たちは新しい家を建てることに決めた。)
88. **I expect to be there this evening.**
(私は今夜そこにいるつもりです。)
89. **I expect (that) I will be there this evening.**
(私は今夜そこにいるつもりです。)
90. **I hope to see you this evening.**
(私は今夜あなたに会えればと思います。)
91. **I hope (that) I see you this evening.**
(私は今夜あなたに会えればいいと思います。)
92. **I promised (my mother) to return home soon.**
(私はすぐに家に戻ると (母に) 約束した。)
93. **I promised (my mother) (that) I would return home soon.**
(私はすぐに家に戻ると (母に) 約束した。)
94. **I wish to become a doctor.**
(私は (あまり見込みはないかもしれないが) 医者になりたい。)

② 目的語に to-不定詞はとらず動名詞をとる動詞

動詞+~ing	訳 し 方 注 意 事 項
advise ~ing	「S〈人〉がO〈事や行為〉を勧める」 Oには名詞や動名詞がくる。また、recommend は〈物〉も〈行為〉も勧めることはできるが、advise は“buying a good dictionary”のように〈行為〉を勧めることはできるが、“a good dictionary”のような〈物〉を勧めることは不可。
enjoy ~ing	(i)「S〈人〉がO〈事物〉を楽しむ [楽しく経験する]」 Oは名詞や動名詞
escape ~ing	(i)「S〈人〉がO〈病気・危険・災難など〉を逃れる」 Oには動名詞がくる場合は、通例、受身形の動名詞がくる。
excuse ~ing	(i)「S〈事〉がO〈事や人〉の言い訳になる」 (ii)「S〈人〉がO〈人の行為など〉を許す」 (ii)のOには属格付の名詞・動名詞がくる。
finish ~ing	(i)「S〈人〉がO〈事〉を終える」 Oは名詞・動名詞がくる。
give up ~ing	(i)「S〈人〉がO〈人・事・物〉をやめる [放棄する]」 (ii)「S〈人〉がO〈人・行為・事〉をあきらめる」 Oは名詞・動名詞がくる。
cannot help ~ing	「S〈人〉がO〈物や事〉を避けられない」 Oは名詞・動名詞がくる。
mind O [O's] ~ing	「S〈人〉がO〈人〉が~するのをいやだと思う」 Oには堅い文章では所有格を用いるが、会話や口語体では目的格を用いる。
miss ~ing	「S〈人〉がO〈事〉を免れる [避ける]」 目的語に動名詞をとることが多く、その事柄は通例、「危険」などを表す望ましくない事柄であるが、「意図的に」「偶然に」のいずれの解釈も可能である。
practice	「S〈人〉がO〈運動や技術など〉の練習をする」 Oは名詞・動名詞がくる。
put off ~ing	(i)「S〈人〉がO〈集会など〉を延期する」 (ii)「S〈人〉がO〈行為など〉を先延ばしにする」 Oには名詞・動名詞がくる。Oに〈人〉がくれば、「人と会う約束を延期する」という意味になる。
stop ~ing	(i)「S〈人など〉がO〈行為〉をやめる」 (ii)「S〈人や事〉がO〈人や事〉を妨げる [中止させる]」 Oは名詞・動名詞がくる。Oに動名詞がくる場合には、(i)の意味なのか(ii)の意味なのか曖昧なことがある。一般に動名詞の動詞的性格が強ければ「行為をやめる」、名詞的性格が強ければ「事を妨げる」になると説明される。しかしながら、「事を妨げる」ことを明示する場合には、《stop O〈人など〉(from) doing》の型が用いられる。

95. I advised buying a good dictionary.
(私は良い辞書を買うことを勧めた。)
96. We enjoyed talking a lot last night.
(私達は昨夜たくさんお話をして楽しんだ)
97. They escped being killed in that railroad accident.
(彼はあの列車事故で事故死を免れた。)
98. Please escuse my coming late.
(遅刻してすみません。)
99. I finished doing my homework in the morning.
(私は午前中に宿題をやり終えた。)
100. My father gave up smoking.
(父は煙草を吸うのを止めた。)
101. We gave him up as dead.
(私たちは彼を死んだものとあきらめた。)
102. I could not help laughing at that.
(私はそれを見て笑わずにはいられなかった。)
103. Would you mind helping me?
(手伝って貰えませんか。)
104. Would you mind opening the window?
(窓を開けてくれませんか。)
105. Would you mind my [me] opening the window?
(窓を開けてもよろしいですか。)
106. The child narrowly missed being run over.
(その子どもは危うく車に轢かれるところだった。)
107. My sister practices speaking English every day.
(姉は毎日英語を話す練習をしています。)
108. I put off buying a refrigerator for a month.
(私は冷蔵庫を買うのを一か月先延ばしにした。)
109. The baby stopped crying.
(赤ちゃんは泣き止んだ)
110. They stopped us from passing through.
(彼らは私たちが通るのを妨げた。)

③ 不定詞・動名詞の両方を目的語にとり、意味もほぼ同じ動詞

動 詞	後に続く形	訳 し 方	注 意 事 項
begin start	+ to~ + ~ing	~し始める	一般的に、不定詞が続いている場合には、「行為の開始」に重点が置かれており、動名詞が続いている場合には「動作が始まり継続している」ことを含意している。
cease	+ to~ + ~ing	~し終える	一般的に、無意志動詞は to-不定詞として続き、意志動詞は動名詞として続く傾向があるが、アメリカの雑誌や新聞では to-不定詞の用例が多くみられる。
continue	+ to~ + ~ing	~し続ける	一般的に、「習慣的、断続的にある行為を繰り返して続ける」場合には to-不定詞が続き、「ある特定時にある行為を休みなく続ける」場合には動名詞が続く。
like	+ to~ + ~ing	~するのが好き	一般的に、like, love, prefer の後の to-不定詞は「習性や行為の過程」に重点を置き、動名詞は「実際の行為」に重点を置く傾向がある。
love	+ to~ + ~ing	~するのが大好き	
prefer	+ to~ + ~ing	~する方を好む	
hate	+ to~ + ~ing	~するのを嫌がる	一般的に、to-不定詞が続くと特定の場合の事柄に用いられ、「今~したくない」の意味を表し、動名詞が続くと習慣的な事柄として「~するのが嫌い」の意味を表す。
intend	+ to~ + ~ing	~するつもりだ	一般的に、to-不定詞が続くのが普通だが、動名詞を続けることも可能。その場合、強い調子が含意される。
propose	+ to~ + ~ing	~するつもりだ ~しましょう	一般的に、to-不定詞が続く場合は、「~するつもりである」と訳せるのに対し、動名詞が続く場合は、「~することを提案する」という意味合いになる。また、《propose to~》は《intend to~》よりもその意図が強く、具体的かつ明確に決意している場合に用いられる。

111. We began to eat [eating] our breakfast.

(私たちは朝食を食べ始めた。)

112. He didn't cease to nurse [nursing] his mother.

(彼は母の看護をするのを止めなかった。)

113. They continued to do [doing] the work.

(彼らはその仕事をやり続けた。)

114. I like to draw [drawing] pictures.

(私は絵を描くのが好きだ。)

115. I love to tell [telling] this story.

(私はこの物語を話すのが好きだ。)

116. I prefer to walk [walking].

(私は歩いて行く方が好きである。)

117. I hate to lie [lying].

(私は嘘をつくのが嫌だ。)

118. I intend to write [writing] to my brother.

(私は兄に手紙を書くつもりだ。)

119. I propose to stop now.

(そろそろやめるよ。)

120. I propose stopping now.

(そろそろやめるとしますか。)

④ 不定詞・動名詞の両方を目的語にとるが、意味が異なる動詞

動 詞	後続く形	訳 し 方	注 意 事 項	
remember	+ ~ing	~したことを覚えている	動名詞は過去の行為・出来事を指すのに対し、to不定詞は未来の行為・出来事を指す。forget に動名詞が続く場合は否定文が主な用法である。	
	+ to~	忘れずに~する		
forget	+ ~ing	~したことを忘れている		
	+ to~	~することを怠る		
try	+ ~ing	試しに~してみる		
	+ to~	~しようとする		
regret	+ ~ing	~したことを残念に思う		
	+ to~	残念ながら~する		
need	+ ~ing	~される必要がある		動名詞は受動の意味、to不定詞には能動の意味がある。
	+ to~	~する必要がある		
want	+ ~ing	~される必要がある		
	+ to~	~する必要がある		
deserve	+ ~ing	~されるに値する		
	+ to~	~するに値する		

121. I remember mailing the letter.

(私はその手紙を投函した覚えがある。)

122. Please remember to mail the letter.

(忘れずにその手紙を投函して下さい。)

123. I will never forget going to London.

(私はロンドンに行ったことを忘れません。)

124. Don't forget to post my letter.

(忘れずに私の手紙を投函して下さい。)

125. I tried speaking to her.

(私は試しに彼女に話しかけてみた。)

126. I tried to speak to her.

(私は彼女に話しかけようとした。)

127. I regret telling you that story.

(あなたにその話をしたことを後悔している。)

128. I regret to tell you this story.

(残念ながらあなたにこの話をお伝えしなければなりません。)

129. My car needs washing.

(わたしの車は洗車が必要だ。)

130. I need to wash my car.

(私は車を洗う必要がある。)

131. He deserves helping.

(彼は助けてもらう資格がある。)

132. He deserves to help.

(彼は人を助ける資格がある。)

<<< 参考図書 >>>

- 『英語基本動詞辞典/普及版』小西友七編 (1985年発行 研究社)
- 『英語教師の文法研究』安藤貞雄著 (1984年再版発行 大修館書店)
- 『徹底例解ロイヤル英文法』綿貫陽 宮川幸久 マーク・ピーターセン 他共著 (2002年発行 旺文社)
- 『表現のための 実践ロイヤル英文法』綿貫陽 マーク・ピーターセン共著 (2006年発行 旺文社)
- 『英文法解説』江川泰一郎著 (1964年改訂新版発行 金子書房)
- 『英文法解説』江川泰一郎著 (1991年改訂第3版発行 金子書房)
- 『英文法総覧』安井稔著 (1996年改訂版発行 開拓社)
- 『英文解釈教室』伊藤和夫著 (1977年再版発行 研究社)
- 『第3版オックスフォード[®] 実例現代英語用法辞典』Michael Swan 著 吉田正治訳 (2007年発行 研究社/オックスフォード[®] 大学出版局)
- A Practical English Grammar, Thomson, A.J. and A.V. Martinet (1986⁴ Oxford University Press)*
- 『第4版 実例英文法』AJ トムソン/AV マーティネット著 江川泰一郎訳注 (1988年発行 オックスフォード[®] 大学出版局)
- Guide to Patterns and Usage in English, Hornby, A.S. (1975² Oxford University Press)*
- 『英語の型と語法』AS ホーンビー著 伊藤健三訳注 (1977年発行 オックスフォード[®] 大学出版局)
- 『現代英米語用法事典』安藤貞雄 山田政美編著 (1995年発行 研究社)
- 『ウィズダム英和辞典 第3版』井上永幸 赤野一郎編 (2013年発行 三省堂)